

福島第一原子力発電所の状況

2015年6月30日
東京電力株式会社

<1. 原子炉および原子炉格納容器の状況> (6/30 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約2.0 m ³ /h	24.4	1.2 kPa g	A系： 0.00 vol%
		給水系：約2.2 m ³ /h			B系： 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約2.4 m ³ /h	30.7	4.30 kPa g	A系： 0.03 vol%
		給水系：約2.0 m ³ /h			B系： 0.04 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約2.3 m ³ /h	28.0	0.25 kPa g	A系： 0.03 vol%
		給水系：約2.0 m ³ /h			B系： - * vol%

* 作業に伴いデータ欠測。

<2. 使用済燃料プールの状況> (6/30 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	25.0 °C
2号機	循環冷却システム	運転中	24.4 °C
3号機	循環冷却システム	運転中	29.6 °C
4号機	循環冷却システム	停止中	22.1 °C*1

※ 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドラジンの注入を適宜実施。

*1 循環冷却システム停止中のため、至近のデータ(6/28 5:00 現在)を記載。

【3号機】・2015/6/21 13:38～6/29 13:46 3号機使用済燃料プール(以下SFP)代替冷却系について、一次冷却系の弁点検作業を行うため停止(冷却停止時のSFP水温度は 22.9°C)していたが、作業が終了したことから、6/29 13:46 にSFP代替冷却系を起動。同日 14:10、運転状態について異常がないことを確認。なお、同日 18:00 時点のSFP水温度は、35.5°Cであり、運転上の制限値 65°Cに対して余裕があり、SFP水温度の管理上問題はない。

<3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況>

号機	排出元	→	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設(高温焼却炉建屋)	6/28 11:17 ～ 6/30 10:25 移送実施
3号機	3号機 タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設(高温焼却炉建屋)	6/28 11:22 ～ 6/30 10:14 移送実施

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (6/30 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設 備(ALPS)	増設多核種 除去設備	高性能多核種 除去設備
運転 状況	停止中*1	運転中*1	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット試験中*2	ホット試験中*2	ホット試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

<5. その他>

- 2014/6/2～ 陸側遮水壁工事を開始。
2015/4/30 12:00～ ブライン(不凍液)循環設備の健全性や地下水の流れによる影響等の確認のため1～4号機建屋の山側(18箇所)を対象に試験凍結を開始。
- 2015/5/27～ 構内で今後使用しないフランジボルト締めタイプのRO濃縮水貯槽(フランジ型タンク)の解体作業を開始。
- 蓋にベント孔がない高性能容器(HIC)1基が確認されたことから、蓋ベント孔の検査記録がないHICについて確認を行い、第二施設に保管されているベント孔数の検査記録がないHICについて確認が完了、全478基のうち17基のHICに設計上のベント孔数と不整合があることを確認。17基のHICの蓋を取り外し、再度ベント孔数の確認を行った結果、孔数に過不足のあったHICは7基(孔不足6基、孔過多1基)であることを確認。今後、ベント孔不足の6基については、設計上の孔数まで追加穿孔を実施。また、第三施設に保管中のベント孔数の検査記録がないHIC(28基)については、設計上のベント孔数があることを確認。なお、蓋に遮蔽ゴムマットを取り付けていたHIC(1基)については、設計上のベント孔数があることを確認し、ベント機能を確保するための対策として、遮蔽ゴムマットを蓋の形状に合わせて切断した。

【1号機原子炉建屋カバー解体作業】

- 2015/3/16 1号機の原子炉建屋カバー(以下、建屋カバー)解体工事に向けて準備工事を開始。
5/15 6:45～5/20 13:11 建屋カバー屋根パネルからの飛散防止剤の散布作業を実施。当該作業期間中において、ダストモニタ及びモニタリングポストのダスト濃度等に、有意な変動は確認されていない。
- 屋根パネル(計6枚)の取り外し作業を5/26頃から開始することとしていたが、原子炉建屋3階機器ハッチ開口部に設置したバルーン※が、所定の位置に設置されていないことが確認され、復旧に時間を要することから、屋根パネルの取り外し作業を延期する。なお、ダストモニタおよびモニタリングポストのダスト濃度等に有意な変動は確認されていない。
※建屋カバー解体作業に伴う放射性物質放出抑制対策として、開口部の面積を小さくすることで放射性物質の放出量を抑える(少なく)ことを目的に設置。

【海水配管トレンチ立坑閉塞充填作業状況】

- 【2号機】•2015/2/24～ 海水配管トレンチの閉塞を目的として、立坑への閉塞材料の充填作業を実施中。
5/27 立坑A、Dについて充填完了。
6/30 海水配管トレンチ内の滞留水 約4,500m³の除去完了。
- 【3号機】•2015/5/2～ 海水配管トレンチの閉塞を目的として、立坑への閉塞材料の充填作業を実施中。
6/12～ 当該作業に伴う海水配管トレンチ内の滞留水については、塩分濃度等を考慮しつつタービン建屋へ排水しているが、タービン建屋滞留水の塩分濃度が上昇した場合、汚染水処理に影響を及ぼすことが考えられるため、一時貯留先として1号機復水貯蔵タンク(以下、「1号機CST」という。)へ滞留水の受け入れを行う。その事前準備として、受け入れ可能な容量を確保する目的で、1号機CSTに貯留されている汚染水を1号機廃棄物処理建屋へ移送を行う。
- 【4号機】•2015/4/15～ 海水配管トレンチの閉塞を目的として、開口部への閉塞材料の充填作業を実施中。

【地下水バイパス揚水井の状況】

- 地下水バイパス揚水井 No.1～12 のサンプリングを継続実施中。
- 2015/6/30 地下水バイパス揚水井No. 10 については、6/29 に採取した水の分析結果において、トリチウム濃度が運用目標値の1,500Bq/Lであることを確認。このため、当該揚水井の汲み上げを本日16:16に停止。今後、地下水バイパス一時貯留タンク内の評価を行う。
- 地下水バイパス一時貯留タンクグループ3の当社および第三者機関による分析結果[採取日6/19]については同等の値であり、ともに運用目標値を満足していることを確認。6/30 10:22 から海洋への排水を開始。同日10:24 漏えい等の異常がないことを確認。同日15:06 排水を停止。排水停止状態に異常がないことを確認。なお、排水量は1,165m³。

【構内側溝に敷設されている耐圧ホースからの漏えいについて】

<K排水路排水口のサンプリング実績>

- 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。また、港湾口連続モニタの値に有意な変動が確認されていないことから、外洋への影響はないものと考えている。引き続き、監視を継続する。

【H4,H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

- 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<H6エリア周辺のサンプリング実績>

- 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査／対策工事の実施状況】

＜地下水観測孔サンプリング実績＞

- ・6/29 採取した地下水観測孔 No.1-12 において、前回(採取日 6/25)と比較し、セシウム 134 は前回検出限界値未満(検出限界値:0.98Bq/L)に対し 38Bq/L、セシウム 137 は前回 4.3Bq/L に対し 150Bq/L と上昇を確認。その他分析結果については、前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

＜地下貯水槽サンプリング実績＞

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上